デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年11月18日(水)　発行：ていネコの投資ノート

※国内の株価・金利は2026年11月18日(水)の大引け、為替は同日15時38分配信のDZH記事に掲載された値(観測時刻の記載なし)、米国市場は11月17日(火)の終値、アジア株は18日の終値に基づきます。東証プライムの売買代金・売買高は概算値です。

1．本日のサマリー

- **日経平均は3日ぶり反発、TOPIXは3日続落。**日経平均は163.85円高の59,024.28円で引けた一方、TOPIXは16.02ポイント安の3,824.00。東証プライムの値下がり銘柄は1,110と全体の7割を超え、指数の上昇と相場全体の地合いが大きく食い違った一日だった。
- **上昇の主因は米エヌビディアの好決算。**前日の米国引け後に発表された8～10月期決算は売上高1,158億ドル、次期見通しは約1,300億ドルと市場予想を上回った。アドバンテストとソフトバンクグループの2銘柄で日経平均を約338円押し上げ、指数全体の上げ幅を上回った。
- **物色は半導体・電子部品に集中。**業種別では石油・石炭製品、電気機器、海運業など10業種が上昇し、サービス業、空運業、陸運業など内需系を中心に23業種が下落した。銀行株も下落し、内需関連など幅広い業種が軟調だった。
- **日銀総裁発言で上値を抑えられた。**寄り付き直後に一時700円超上昇したが、植田日銀総裁が追加利上げに前向きな姿勢を示したと伝わり失速し、前場は下げに転じた。後場はプラス圏を回復したものの、米株安の重しも残り、上げ幅は限られた。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	59,024.28	+163.85	3日ぶり反発(+0.28%)
TOPIX	3,824.00	-16.02	3日続落(-0.42%)
東証プライム売買代金	8兆502億円		概算。売買高は24億5217万株
プライム騰落銘柄数	401／1,110		値上がり／値下がり。変わらず40
新発10年国債利回り	2.870%		前日比は出典間で方向が分かれ不掲載
長期国債先物12月限	126.34円	+0.10円	反発。17日引けは126.24円
ドル円	159.27円	-0.11円	DZH15時38分配信、前日NY終値比
ユーロ円	174.92円	-0.37円	DZH15時38分配信、前日NY終値比
NYダウ	50,759.42	-848.75	11月17日終値、続落(-1.64%)
S&P500	7,340.53	-76.06	11月17日終値(-1.03%)
ナスダック総合	24,328.38	-181.38	11月17日終値、続落(-0.74%)
SOX指数	9,642.88	+32.23	11月17日終値(+0.34%)
米10年債利回り	5.10%	-0.02%pt	11月17日NY引け時点
WTI原油(12月限)	86.01ドル	+0.29ドル	11月17日清算値
CME日経平均先物	58,890		17日清算値、大阪日中終値比-10円
韓国KOSPI	5,067.44	+98.96	18日終値(+1.99%)
上海総合指数	3,587.83	+3.25	18日終値(+0.09%)

3．株式市場

半導体主導で大幅高の寄り付き、日銀発言を受けて失速

前日の米国市場はNYダウが848.75ドル安と大きく下げたが、引け後に発表されたエヌビディアの決算が市場予想を上回り、同社株は時間外取引で上昇した。東京市場はこれを受けて半導体関連に買いが先行し、日経平均は寄り付き直後に一時700円超上昇した。しかし買いは続かず、植田日銀総裁が追加利上げに前向きな姿勢を示したと伝わると上げ幅を急速に縮め、前場はマイナス圏で取引を終えた。

後場はプラス圏を回復し、大引けにかけてやや買いが優勢となった。ただ、日中の値幅は大きく、エヌビディアの好決算と、同社の最高経営責任者(CEO)退任など経営の先行きへの不安が交錯する神経質な展開だった。

材料の割に売買は膨らまず

エヌビディア決算という大きな材料を受けた割に、売買代金は概算で8兆502億円と、16日の7兆9303億円、17日の7兆9154億円からわずかに増えたにとどまり、13日の8兆4082億円も下回った。売買高も概算で24億5217万株にとどまった。17日のシカゴ日経平均先物の清算値は58,890円と大阪の日中終値比10円安で、決算発表前の水準だった。日経平均は寄り付き直後に一時700円超上昇したが、その後は上げ幅を縮め、前場は下げに転じた。値動きを見る限り、上昇は朝方に集中した。

物色は半導体・電子部品に集中、内需と金融は軟調

個別ではアドバンテストが大幅高となり、ソフトバンクグループ、TDK、東京エレクトロン、レーザーテック、村田製作所なども日経平均を押し上げた。一方、ファーストリテイリングが約110円の押し下げ要因となり、リクルートホールディングス、中外製薬、大塚ホールディングスなども下げた。業種別では石油・石炭製品(+1.28%)、電気機器(+1.16%)、海運業(+0.81%)が上位、サービス業(-2.20%)、空運業(-2.03%)、陸運業(-1.70%)が下位となった。銀行業も-1.14%と軟調で、三菱UFJフィナンシャル・グループやみずほフィナンシャル・グループが売られた。楽天銀行は一時ストップ安まで売られた。業種別では上昇が10業種、下落が23業種と、下落業種が上昇業種の2倍を超えた。

4．本日の主題：反発した日経平均と、続落した TOPIX

何が起きたか。日経平均が 163.85 円高となった一方、TOPIX は 0.42%安と逆方向に動いた。プライム市場の値上がりは 401 銘柄にとどまり、値下がり銘柄が全体の 7 割を超えた。指数を押し上げたのはアドバンテスト 1 銘柄で約 255 円、ソフトバンクグループと合わせて約 338 円で、この 2 銘柄を除けば日経平均は下落していた計算になる（筆者算出）。

なぜか。エヌビディアの好決算は AI 向け半導体需要の強さを改めて示したが、買いは半導体検査装置や電子部品など一部に集中した。前日の米国ではソフトウエア株が大きく売られ、S&P500 は全 11 業種が下落した一方、SOX 指数は +0.34%と小幅高にとどまった。AI 関連の中でも、半導体と、データセンター投資の回収が問われるソフトウエアとで評価が分かれている。東京でも、値がさの半導体株が日経平均を支える一方、銀行株や内需関連など幅広い業種が売られた。

何を意味するか。日経平均の反発は相場全体の回復を意味しない。日経平均は 16 日に 59,662.02 円と 6 万円を割り込み、TOPIX は 17 日に 3,840.02 まで下げていた。本日の値動きは、半導体株の自律反発と、それ以外の銘柄の調整継続が同時に進んだものと整理できる。相場の方向感を判断するには、日経平均だけでなく TOPIX と騰落銘柄数を併せて見る必要がある。

5．債券・金利

円債は買いが優勢だった。長期国債先物 12 月限は 126.34 円と前日比 0.10 円高で反発し、新発 10 年債利回りは 2.870%だった。前日の米長期金利の低下と、国内株の伸び悩みが先物の買い材料となった。年限別では、フィスコ集計で 2 年債が 1.853%、5 年債が 2.238%と中短期ゾーンが低下した一方、20 年債は 3.752%とほぼ横ばいだった。米 10 年債利回りは 17 日に 5.10%と、前日比 0.02%ポイント低下した。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に一時 159.65 円まで上昇した後、14 時過ぎには 159.14 円まで下げた。15 時 38 分配信の DZH 記事では 159.27 円と、前日 NY 終値比 0.11 円の円高・ドル安だった。米長期金利の低下がドルの重しとなった。ユーロ円は同記事で 174.92 円と、前日 NY 終値比 0.37 円の円高。17 日の WTI 原油 12 月限は 86.01 ドルと小幅に上昇した。イラン情勢を巡る緊張で一時上昇した後は上値を抑えられた。

7．海外市場の動向

17 日の米国市場は主要 3 指数がそろって下落し、NY ダウは 848.75 ドル安（-1.64%）、ナスダック総合は 0.74%安と続落した。米国家安全保障局（NSA）の通信網での障害報道がサイバー攻撃への警戒を誘い、ソフトウエア株の下げが目立った。

18 日のアジア市場は、半導体比重の高い韓国が上昇した。KOSPI は 98.96 ポイント高の 5,067.44（+1.99%）と 5,000 台を回復し、SK ハイニックスが 4.19%、サムスン電子が 2.31%上昇した。ただし外国人投資家は売り越した。上海総合指数は 3,587.83 と小幅高。香港ハンセン指数は約 0.6%安で、米国による対中半導体規制の強化がアリババや百度などネット大手の重しとなった。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	前日比	売買代金
11 月 13 日（金）	61,142.35	+322.99	3,941.57	+4.24	8 兆 4082 億円
11 月 16 日（月）	59,662.02	-1,480.33	3,901.37	-40.20	7 兆 9303 億円
11 月 17 日（火）	58,860.43	-801.59	3,840.02	-61.35	7 兆 9154 億円
11 月 18 日（水）	59,024.28	+163.85	3,824.00	-16.02	8 兆 502 億円

9．総括と注目点

エヌビディアの好決算という明確な買い材料があったにもかかわらず、TOPIX は続落し、値下がり銘柄は 7 割を超えた。日経平均の反発は一部の値がさ株によるもので、米国株安、日銀の追加利上げ観測、米中の半導体摩擦という重しはいずれも残っている。CME 日経平均先物の 17 日清算値（58,890 円）は決算発表前の水準であり、決算を米国市場の通常取引がどう評価するかが次の焦点となる。

- 19 日早朝（日本時間）の米 FOMC 議事要旨（10 月 27～28 日開催分）と米長期金利の反応。
- 18 日の米国市場でのエヌビディア株、SOX 指数、ソフトウエア株の反応と、19 日（米国時間）に予定されるアンソロピックのナスダック上場。
- 植田総裁発言を受けた国内金利と銀行株の動き。中短期の国債利回りとドル円 159 円台の推移。
- 中国・深圳での APEC 首脳会議（18～19 日）と米国の対中半導体規制を巡る報道。香港・中国株への波及。

注記：前日比・騰落率は、前営業日の値との差として筆者算出（以下に記すものを除く）。新発 10 年債利回り 2.870%は DZH 東京マーケットダイジェストで確認（単一出典）。前日比は DZH では低下、日経 QUICK ニュースでは上昇と方向が分かれ、系列を揃えて確定できなかったため掲載を見送った（フィスコ集計の気配値は 2.859%）。2 年・5 年・20 年債はフィスコ日次「日本国債市場」系列のみ。ドル円・ユーロ円の水準と東京時間の高値・安値は DZH 東京マーケットダイジェスト（15 時 38 分配信、観測時刻の記載なし）のみ。ユーロ円の前日比は前日 NY 終値 175.29 円との差。WTI は DZH のみで確認し、前日比は同社の印字値（16 日終値 85.72 ドルは二次集計サイト stock-marketdata.com の値と一致）。S&P500、米 10 年債利回り、KOSPI の前日比は出典の印字値で、筆者による検算は未実施（米 10 年債は DZH 集計で 5.11%）。上海総合は株探のみ（前日終値 3,584.58 はロイター配信記事で確認）。ハンセン指数は Trading Economics の丸めた表現。寄与度はフィスコ「日経平均寄与度ランキング（大引け）」の「約」表記で単一出典。日経平均採用銘柄の騰落数は出典間で値上がり数が異なるため掲載を見送った。韓国個別株の騰落率は Korea Times のみ。ナスダック総合の前日比は一部記事で-181.37 と印字されているが、前日終値 24,509.76 との差を採用した。「直近の推移」の 10 年債利回りは、13 日の終値利回りを同一系列で確認できなかったため掲載を見送った。

本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆したものです。推測・算出値は「筆者算出」と明記しています。出典：株探、ウエルスアドバイザー（Yahoo!ファイナンス）、共同通信（QANDA・熊本日日新聞掲載）、フィスコ（財経新聞）、DZH（ザイ FX!・OANDA）、ロイター（ニューズウィーク日本版・Business Recorder）、トレーダーズ・ウェブ、media-ir、TechFlow、Nasdaq 公式指数ページ、Korea Times、Trading Economics、stock-marketdata.com、日本経済新聞（見出し）。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。